

10年ひと昔とはよく言ったものです。今年9月で、乳がん宣告を受けて10年になります。多くの仲間(ガン友)や良き医療者に支えられ、私は病気をきっかけに人生が変わった一人です。

それまでの私は弱虫で、引っ込み思案で、人前では自分の言いたいこと、したいことはぐっと我慢してこらえ、何かあると愚痴る、自分のことは棚に上げて他人のせいにする……そんないやな人間でした。私はそんな自分が大嫌いで、自分の生き方に嫌気がさしていました。

そんな折の乳がん宣告でした。

幸い、私の場合、幾度となく職場の健診でひっかかっては要精密検査の通知をもらい、再検査を受けては異状なしということを繰り返していたので、日頃からセルフチェックを心がけていました。

自分で見つけたガンは腫瘍は小さく、7mm×10mmというサイズ、リンパへの転移もなしという早期で、おさまりの温存手術、放射線療法、ホルモン療法コースに進みました。再発の疑いで半年後に再手術を受けましたが、幸い良性ということで今日に至っています。せっぱ詰まった状況ではなく、再発もなく今日に至っているので、のんびりと人生が変わったなどとぼやけるのかもしれない……

もうずっと以前定期検診に行った時、医師から質問を受けたのを思い出します。「あなたの人生にとって、ガンになって得したことと損したこと、プラス、マイナスしてどうですかね？」聞き方は若干違ったかもしれませんが、そういう内容で聞かれたように記憶しています。その時私は迷わず、「ガンになって良かったです」と答えました。2度の手術で体は傷つき、併せて2度目の手術で心も大きく傷つきました。また、その時服用したホルモン剤の副作用で、いまだに薬を服用するはめにもなっていました。

しかし、それまで何となく生きてきた私にとって、「生きるってなに？」と感じさせてくれ、自分にとって何が大事で、何を自分は守るべきか教えてくれたのが、ガンとの出会いだったように思います。

私がガンを発症せず、あのままダラダラと生きていたら……と思うとぞっとする今日この頃です。人生は一度きりです。この後何歳まで生きられるかわかりませんが、命ある限り、自分の今を輝かせて生きたい、そう思うこの頃です。

そんな中80歳になる母が肺がんとなり、イレッサを服用し2ヶ月が経過しました。おかげさまで、その後ガン細胞は小さくなり副作用に苦しむこともなく、今は良い時間が持てるようになりました。母が副作用で苦しむ姿を見るくらいなら、高齢なので何もしないという選択肢もあるのではないかと、イレッサはいくら医師にすすめられても、それだけは受け入れたくないという思いが私にはありました。しかし、良い時間が持ているという現実を自分自身が素直に受け入れ、今後の糧にしていきたいなと思います。